

# ひとりから

真宗大谷派青少幼年センター機関紙『ひとりから』  
発行日/2014年12月1日(年4回発行)  
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター  
〒600-8168 京都市下京区室町通六条下る  
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599  
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp  
発行人/青少幼年センター長 木越 渉

東本願寺  
池の平青少幼年センター

# 40 周年



## 蓮ちゃん通信 その①

### たの 雪に愉しむ池の平開催!

今年度の「雪に愉しむ池の平」(池の平青少幼年センターで開催)は、2015年2月28日㊥～3月1日㊥に開催されます。ぜひご家族でご参加ください。

詳しくは、高田教務所内「池の平青少幼年センター係」☎025-524-3913 までお問合せください。

池の平青少幼年センター

検索

### 子ども会情報募集中!

“お寺にどう子どもたち”の写真や動画など子ども会の内容をお寄せください。

宛先は、「郵送」または「E-mail」  
oyc@higashihonganji.or.jp  
「ひとりから」子ども会情報係」まで



## わたしは いま ここにいる

たつしま なおこ  
青少幼年スタッフ 立島 直子

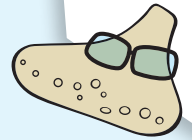
妙高山(新潟県)の麓にある東本願寺池の平青少幼年センターは40周年を迎えました。今年は特別に、夏休みの子もたちのキャンプと一緒にセンターの40周年をお祝いしました。自然の中で仲間と一緒に遊んで食事を作り、夜は真っ暗闇の中でキャンプファイヤーを囲む…。夜空にはみんなを見守るように星が瞬いていました。

キャンプ3日目朝の法話の時間に「さみしいときかなしいときにあみださまの光がその姿を照らし出して影となって、“わたしは いま ここにいる” ことを見せてくれる」というお話を聞きました。そのとき、キャンプに参加したけど途中で帰りたくなった子、本当はさみしいけど我慢してがんばっている子のことを思いました。

“わたしは いま ここにいる” その言葉を胸の中できり返しながら、誰にとっても大切なのは自分自身との出会いで、それが本当の自信につながっていくように感じました。

# 雪は天からの贈り物

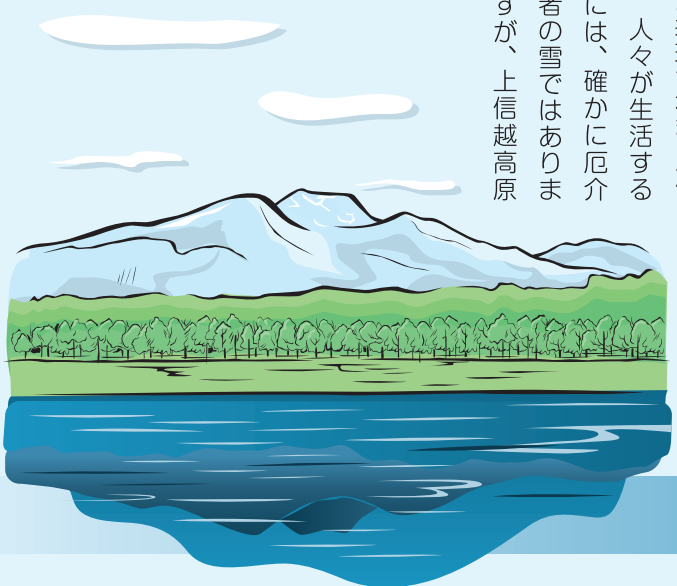
前池の平青少年センター主事  
高田教区 保倉謙雄



雪国新潟の中でも、ひととき雪深い妙高高原池の平です。シベリア寒気団が日本の海水を雪とし、屏風のように立ちはだかる妙高山にぶつかり、麓の大地に連日多くの雪をもたらします。

そのような環境の中に、宗派が青少年に関わるリーダーと青少年の育成を目的に設置した施設、東本願寺池の平青少年センターがあります。

積雪の多い年には、2メートルを優に超え、連日の道路除雪はもちろんのこと、春を迎えるまでには屋根から落ちた雪をキャタピラ付きの除雪機（ブルドーザー）で何度か取り除かねば、一階の窓から空も見えなくなるのです。そして、気温もひと冬に2、3回ではありませんが、氷点下13度から15度に達します。そのようなくよく晴れた朝、空気中の水分が冷やされ太陽の光に照らされ輝く「ダイヤモンドダスト」という現象も、北海道でなくともこの池の平でも経験がたいがひびきののび。



## 子どもたちと聞く法話

国立公園の中でもひととき積雪の多い妙高山系の山々は、雪が木の枝や草の茂みを覆い尽くし、夏場に行けない林間をスキー板やかんじき（スノーシュー）を使えば、これ又楽しい時間を過ごすことができるのです。

新緑の春、山々は淡い緑に一面に覆われます。でも一口に緑といっても、淡い黄や白、はたまた薄い赤など、紅葉かと思間違つほどいろいろな色で、山肌がわずか4〜5日の間ですが、まるでベルシヤ絨毯のようにモクモクと変化して見えるのです。

また、雪は天然の貯蔵庫です。春から夏にかけて少しずつ溶ける雪は、裾野に広がる平野部の水田を潤します。

そこに生活する者にとって、確かに雪は厄介者。この雪が無ければと感じるのも事実ですが、春夏秋冬の四季があるおかげで、これまで池の平での野外活動も、変化のある活動や体験ができてきたのだなど、つくづく感じます。

雪の不便さ、厳しさを感じるがゆえに、人々は春を待ちわび、春を楽しむように、私たちは毎日の生活の中で、自分に不都合なことや嫌なことにくさくさ遭遇します。

しかしその中で、心から嬉しく、心温まる出来事にも出あいます。そのほんの少しの心温まる出あいが、自分にとって多くの不都合をも覆い、意味あることとして気づかせてくれることがあるように感じます。

### 蓮ちゃん通信 その②

## 絵本100冊プレゼント応募受付中!

お寺の子ども会で絵本を活用してみませんか?  
詳しくは、9月末の寺院・教会定期直送便同封の応募要項、もしくは、青少年センターホームページをご覧ください。  
【12月19日㊦ 応募締切】

東本願寺 青少年センター

検索



～絵本でつながるお寺と子ども～

ひとりからはじめる  
イベントレシピ

# 子どもと絵本を楽しもう!

あんな時、こんな時、その場にあった  
絵本を選んでみましょう。



## 参加型の絵本

子どもたち、  
落ち着かないな...  
そんなとき...

例えば



子どもたちに  
声を出してもらいましょう

### やさいのおなか

きうち かつ さく・え

これ、なあに?  
何の野菜の切り口か、君にはわかるかな?

ほかに

『しつもん!おしゃべりさん』  
『これはのみのぴこ』などもおすすめ!

## 四季折々の絵本

今日は  
外は寒いな...  
そんなとき...

例えば



もっと寒さを  
味わうのはいかが?

### てぶくろ

エウゲーニー・M・ラチョフ さく・え/うちだりさこ やく

雪の上におじいさんがてぶくろを落としました。  
動物たちがやってきて、どんどんやってきて...  
さあ、どうなる?!

ほかに

『月夜のみみずく』  
『ゆきのひ』などもおすすめ!

## 写真絵本

読んだあとは  
探検だ!  
そんなとき...

例えば



さあ、みつけにいこう!

### ふゆめがっしょうだん

長 新太 文/富成 忠夫, 茂木 透 写真

春を待つ木々の冬芽たち。  
みんなユニークな顔をしていますよ。

ほかに

『まちにはいろんなかがいて』  
『おちぼのしたをのぞいてみたら』  
などもおすすめ!

その他昔話やナンセンス絵本・平和を考える絵本など、  
いろんなジャンルの絵本がたくさんあります。

その場の状況に応じて選び、

**子どもも大人も楽しみながら子ども会をやってみませんか?**



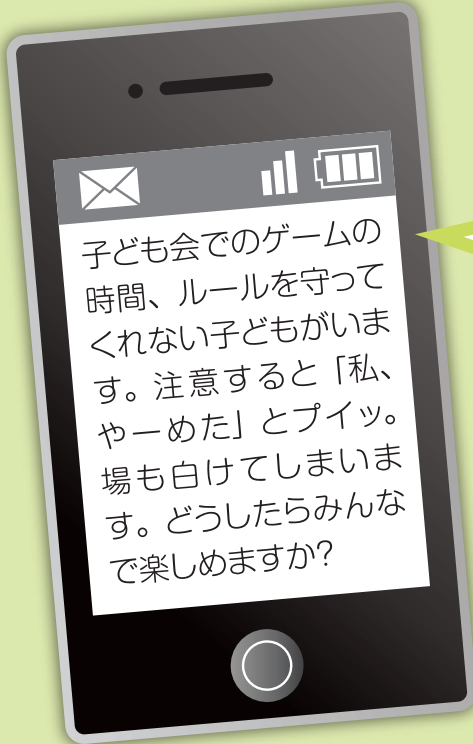
読み聞かせの  
ワンポイント  
アドバイス

子どもたちがお話の世界に入り  
込めるよう、淡々と読み、終わり  
ましょう。説明をしすぎたり大げ  
さな芝居はいりません。

Re:

# サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



子ども会でのゲームの時間、ルールを守ってくれない子どもがいます。注意すると「私、やーめた」とプイツ。場も白けてしまいます。どうしたらみんなで楽しめますか？

さがえ なつふみ  
**佐賀枝 夏文**

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少幼年センター非常勤嘱託。カウンセラーネーム「サガエさん」です。



## やんちゃな態度

子ども会でゲームやグループ活動が始まると、白けた態度を取る子どもや「やだー」を連発する子どもがいます。それに、注意すると、妙に「だるい、なんでー」と、はぐらかしたような返事が返ってくる場合があります。楽しみながら参加している子どもたちにも伝染して、進行がギクシャクしてしまいます。このようなとき、どのように対応したり、「ことばがけ」をしたらいいのでしょうか。

これは、子ども会の進行で抱えやすい問題のひとつですね。なんとなく「照れ」があり、本心ではない気持ちや行動をとる時期の子どもがいます。成長して幼児からの衣替えの時期と考えると、心身が成長して何を着てもちぐはぐな感じなのでしょう。与えられたものには、まず「嫌だ」という言葉や行動となる時期があります。

この時期の参加メンバーがいるのでしたら、ひとつ提案があります。サブリーダーとして子ども会の計画や準備に参加を積極的にしてもらってはいかがでしょう。「いやだー」「だるい」が態度としてでるのは困りますが、物足りないから、もっと違ったことをやりたい気持ちとして読み解けばいいと思います。お寺の子ども会の意義を感じているのですから、そのことを大切にしてください。

## 子ども会の悩みや困りごとをお寄せください！

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

## 蓮ちゃん通信 その③



### 紙芝居 第4弾

### 『あみださまのたんこぶ』 新刊

村上いこ 脚本/かつらこ 絵/青少幼年センター 企画・制作  
東本願寺出版部 発行

「造悪無碍」をテーマにした、暴れん坊の権太とそれを見守る念仏おばばや親鸞さま、村の人たちとの物語です。

【定 価】2,000円 (税別)

【申込先】075-371-9189 (東本願寺出版部)

インターネットでの書籍のお求めは、



◎最近、書店や図書館の絵本コーナーへ足を運ぶようになりました。懐かしい絵本、声を出して読みたくなる絵本に、ついつい時間を忘れてしまいます。「読み聞かせはちよつと苦手」という方も、今号のイベントレシピを参考に絵本のある子ども会をしてみませんか。サガエさんのお返事を読みながら、読み手を子どもたちにおまかせしてもよいかも…と思いました。(編集長)

◎先日池の平青少幼年センターの冬支度をお手伝いしました。雪の重みであらゆる物が壊れるので、ヒザ窯も雪囲いをし、外のは倉庫に片付けます。40年繰り返された冬支度です。にび色の日本海で私は育ちました。ままならぬドロンリ冬空の下、華やかな春の前は冬に決まっている、冬のない春はない、そんなことを思います。次号は春、三月一日発行予定です。

―山笑(ここに我立つ影のあり―(青セ主幹)

編  
集  
後  
記

